

発行所 **ビジネス通信社**
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町20-7
電話03(3662)2728
FAX03(3662)1943

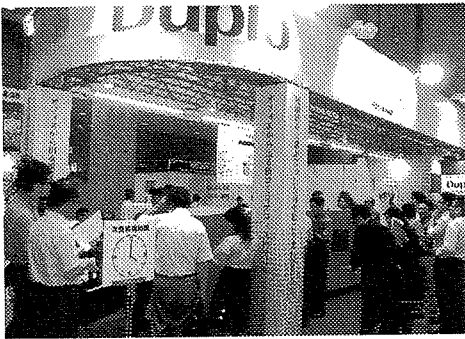
NEWS ビジネス・マニ

造る・売る＝メーカーとディーラーそのかけ橋に＝

週刊・火曜日発行
(5週目は休刊)
昭和40年3月24日
第三種郵便物認可

郵便振替口座
00120-5-56665
取引銀行
みずほ銀行横山町支店
三菱東京UFJ銀行大伝馬町支店
三井住友銀行錦座支店

1番人気は小型製紙装置



デュプロがエコオフィス展 参考出品

ISOT/OFMEVXなどリード社主催展示会が七月七日から九日まで、東京ビッグサイトで合計一千五百一社が出展し盛況に開催された。事務機関連で一番人気となったのが、エコオフィスEXPOにデュプロが参考出品した小型製紙装置だ。出力機器の省エネ性能が年々向上し、最近ではプラスチックやトナーのバイオマス化も注目されているが、さらに今後は用紙の再利用も焦点になりそうだ。

業界関係も注目目的 小型実現し真っ白に再生

デュプロの小型製紙装置「ピー用紙を、A4サイズの「RECOOTIO(レコティオ)まっ白な100%再生紙に、さらに装置「イオ」PM1000」を、新しい用紙を再生する「CO2」排出量を約六五%削減可能としている。機密文書の処理を外部委託せず、企業内で行え、用紙を繊維段階まで分解するため、外部への情報流出を防ぐことができる。生産能力は毎時三百六十枚。

「レコティオPM1000」は、世界初の「インク(トナー)除去機能」によって、用紙を水でほぐした上でトナー成分と紙の繊維に分別し、トナーを除去して再生紙にリサイクルする。同社では、来場者の意見なども参考に、さらに装置の完成度を高め、来年四月からの販売開始を予定している。価格は一千五百万円程度。

用紙再利用も焦点に

こうした小型リサイクル製紙装置は、今までも開発今後検討していく考えだ。同社では、保守サービスは原則的に直接自社で行う方針だが、系列販社による直販以外の販売については、今後検討していく考えだ。

①使用済み定型用紙をセツトし、内部のシュレッダでクロスカット/またはクロスカットのシュレッダ紙を投入する、②紙を繊維段階まで分解する、③トナー成分を除去する、④ベルトに繊維を流し紙をすく、⑤ヒーターで水分を乾燥する、⑥シート状の再生紙をA4サイズに断裁する、という仕組み。再生の対象となる使用済み用紙は、トナー方式の複

されてきたが、再生紙にトナーが残って事務用途に適さない、装置が大型で高額過ぎるなどのネックがあったため、実質的には製品化されていなかった。デュプロでは、今回の小型製紙装置を七年前かけて開発したという。従来にならぬ小型で白色度が極めて高い用紙に再生できるため、事前に開発発表されたこと

もあって、同社ブースは同業他社も含めて非常に高い関心を集めた。同社では、保守サービスは原則的に直接自社で行う方針だが、系列販社による直販以外の販売については、今後検討していく考えだ。

使用済み用紙は九割程度が再生され、約十回繰り返して再生できる。また、新しい用紙に用紙を五割程度混ぜれば、半永久的にリサイクル可能という。装置の小型化を図ったため、ホチキス止めやファクス用紙等の投入はできない。本体は給紙部・ウエット部・ドライ部で構成。それぞれ任意の位置にL型/C型などに設置できる。大きさはストリートライン設置の場合で幅四七七×奥行一〇〇×高さ一七五を實現している。専用装置で消すことができない「消せるトナー」を「提供してきた東芝テックは、先に「瞬時に消せるトナー」をパイロットと共同開発する」と発表している。

複写機・複合機/プリンタは、本体の省エネ性能が年々向上し、再生プラスチック部品やバイオマスプラスチックの採用に加え、トナーもバイオマス原材料の導入が始まっている。今後はさらに、環境負荷をより低減できる再生紙の開発も課題となりそうだ。

写機やプリンタで出力したもので、デジタル印刷機などインク使用の用紙は再生できない。また、ストレートカットでシュレッダ処理された用紙も直接は投入できない。

(4面に紙上展)